

令和6年度 春期 IT サービスマネージャ試験 解答例

午後 I 試験

問 1

出題趣旨	
<p>クラウドサービスの利用が進み、クラウドサービスの料金体系と特徴を踏まえた予算化を行うこと、及び予算と発生する費用を管理することが重要になる。</p> <p>本問では、IT サービスの予算業務及び会計業務を題材として、費用の分類と費目ごとに費用を明確にする能力、予算を策定する能力、予算が適切に実行されているか監視し管理する能力などを問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	(1) 3,900	
	(2) ①	
	(3) 10,800	
設問 2	(1) R クラウドのサーバとストレージの使用量	
	(2) ・ R クラウド移行後も DC 使用料を間接費として配賦すること ・ DC を利用しない T 事業部にも DC 使用料が按分されること	
設問 3	(1) 急増する需要に対応してリソースを拡張し、予算を超過する。	
	(2) 予算を超過して費用支出をする場合の承認手順を作り、利害関係者と合意する。	

問 2

出題趣旨	
<p>近年、IoT デバイスなどを構成品目とする IT サービスが増えており、IT サービスマネージャには、構成品目の特性を捉えた管理が求められる。</p> <p>本問では、IoT を活用した駆務サービスを題材として、稼働率や計画停止といったサービスの可用性管理に関する実践的な能力を問うとともに、SNS データの分析を使った障害検知の早期化による可用性の改善能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	(1) 99.50	
	(2) 計画停止時間を削減することができる。	
設問 2	(1) 作業員が目視で判断していた故障の前兆を、データに基づいて判断できる。	
	(2) 定期交換と比べて部材を長期間利用するので、部材の交換頻度を減らすことができるから	
設問 3	(1) インシデントの初動対応の早期化	
	(2) 情報の正確性が、現場からの情報より低いから	

問3

出題趣旨	
<p>近年, DX を進める企業にとって, 新しい IT サービスを迅速に提供することが重要事項となって, コンテナ技術を導入するケースが増えている。</p> <p>本問では, 新たにコンテナ型仮想環境を導入する事例を題材として, IT サービスマネージャとして, コンテナ型仮想環境を使うメリットやコンテナ技術の特徴を理解しているかを評価し, 運用管理に必要な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	(1) <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験環境整備の作業時間を削減できる。</li> <li>・試験環境の整備を迅速に行える。</li> </ul>	
	(2) AP を迅速に起動できるから	
設問2	(1) W サービスをほとんど止めることなくデプロイすることができる。	
	(2) 1 世代前の稼働環境をコンテナとして残すことができるから	
	(3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・接続先を 1.0 版のコンテナに切り替える。</li> <li>・利用者が使う稼働環境をブルーに切り替える。</li> </ul>	
設問3	(1) エラーログの情報を外部記憶装置に保存	
	(2) 7	